

自校の指導ツールを他校の教師とともに検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、社会人講話などの進路講演会で、生徒が考えを深め、整理するための「進路講演会 振り返りシート」について検討する。

平成29年度学びのフローラ 感想・メッセージ記入用紙

| 年 | 組 | 番 | 名前 |
|---|---|---|----|
| <p>松竹梅のどれかに○をつけよう。</p> <p>松 社会に出て働いている自分を明確にイメージすることができた。</p> <p>竹 社会に出て働いている自分をイメージすることにワクワクしてきた。</p> <p>梅 社会に出て働いている自分をなんとなくイメージすることができた。</p> | | | |
| <p>自己評価</p> | | | |
| <p>この場で初めて知ったこと・これからしようと思ったこと</p> | | | |
| <p>講師の方にメッセージ</p> | | | |

Before

北海道旭川東高校
花尻健明先生提供

「全学年
進路講演会 振り返りシート」

課題

- 1 「面白かった」といった感想レベルにとどまり、自己理解などにつながる深い振り返りにならないことがある
- 2 他者の生き方・考え方を自分と結びつけたり、比較したりすることで、高校生活の中でできること、すべきことを考えさせたい

検討メンバー



ツール提供者

北海道旭川東高校

花尻健明

はなじり・たけあき



群馬県立下仁田高校

高橋真人

たかはし・まさと



埼玉県立浦和高校

岡本眞一郎

おかもと・しんいちろう

具体的な行動につながる
モヤモヤ感に向き合わせたい

北海道旭川東高校では、月に1回程度、希望者に対して、卒業生を中心とした大学生や地域で活躍する社会人による進路講演会（学びのフローラ）を放課後に実施している。多様な人生観に触れることで、自身の進路を考えるきっかけとすることがねらいだ。ただ、現状の感想・メッセージ記入用紙では、「講演は面白かった」とその場の満足感を記入するだけの生徒もいて、具体的な行動、変化を生むために必要な深い振り返りにつながりにくいと花尻先生は感じている。今回は、他者と自分を照らし合わせ、自身の生き方に対する考えを深めるきっかけとなる用紙を開発することが、検討会のテーマだ。

全学年 進路講演会 振り返りシート

After



平成29年度 進路講演会 振り返りシート

| 年 | 組 | 番 | 名前 |
|---|---|---|--|
| 1 | | | 講師の方の生き方、 考え方で 共感できたこと・ 自分とは違うと 思ったこと |
| 2 | | | 講演を通して 知った社会 (地域、世界)の課題、 将来取り組んで みたい社会の課題 |
| | | | 講演をきっかけに、 高校生活で 取り組もうと 思ったり、変えようと 思ったりしたこと |
| | | | 講師の方への メッセージ |

改良ポイント

- 1 講師の生き方・考え方で、
共感できたこと、
違うと思ったことを整理させる
講師の話をも自分の価値観や経験と
照らし合わせながら整理させること
で、聞いたことを深く理解させる。
- 2 将来取り組みたいことや、
今できること、すべきことを
考えさせて今後につなげる
講師の話から世界観がどのように広
がったかなどを言語化させ、そこ
での気づきによって日々の高校生活
をどのように変えていけるかを考え
させる。

他者と自分を照らし合わせ、
「将来→今」の順に考えさせる

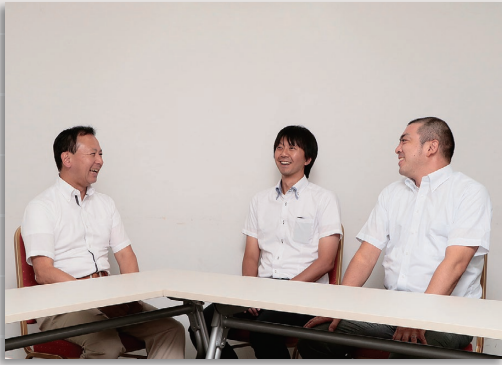
最初に、自分の価値観や経験を基に
共感できたこと、違うと思ったことを
書かせることで、講演内容を自分に引
きつけて考えられるようにした。それ
により、講演が面白かったかどうかだ
けでなく、自分と向き合うことが期待
できる。また、地域を始めとする社会
課題の解決に取り組む講師も多く、生
徒も地域活性化などの社会課題に関心
を持っているため、どんな社会課題に
かかわってみたいか、高校生活で取り
組めそうなことは何かを書かせて、将
来の自分と今の自分を接続して考えら
れるようにした。なお、「社会に出て働
いている自分をイメージできたか」と
いう問いは、進路講演会だけで実現で
きるものではないため、削除した。

次ページでは、
3人の先生方の
検討の様子を
ダイジェストで紹介!



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<http://berd.benesse.jp>) からダウンロード
できます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

全学年 進路講演会 振り返りシート



活用の流れ

- 1 あらかじめ、
進路講演会の目的・振り返る意義を
生徒にしっかり認識させる
- 2 進路講演会后、シートに記入させ、
教師に提出
- 3 生徒が自分と向き合っていると
感じられる箇所に教師が下線を引いたり、
コメントを加えたりして、
フィードバックをする

自ら挑戦することの大切さに
気づく問いを投げかける

改訂のポイントとなったのは、講演会のねらいを改めて確認し、それに沿った用紙とすることだ。旭川東高校の進路講演会「学びのフロア」では、講師が進路をどのように実現したかといった「職業への就き方」よりも、「なぜ、そうした進路を選んだのか」「今、その進路をどんな思いで歩んでいるのか」を話してもらうことを重視している。それは、主体的に学ぶことや挑むことの楽しさに生徒が気づき、高校生生活をさらに充実させようと具体的に動き始めることをねらいにしているからだ。それを踏まえ、進路講演会后、生

徒が短時間で自分を深められる問いを厳選した。同時に、そうしたねらいを生徒に言葉でしっかりと伝えることの大切さも確認した。

講師の話に対して、「この人の考えは自分と違う」という部分にも目を向けさせることで、むしろ素直に講師と向き合えるのではないかと、仮説も出された。「自分には講師のような勇氣はない」などの後ろ向きな言葉を発した生徒には、教師が「一步を踏み出すのは簡単ではないよね」などとその感情を受け止めた上で、「講師は、君たちのような普通の高校生に何を言いたかったのかな」と個別に問いかけ、進路講演会で生まれたモヤモヤ感を効果的に持続させる指導の大切さも指摘された。

検討メンバーの先生に、自身の指導観や自校の生徒特性を踏まえて、
ツールの活用方法や留意点などをお話いただきました

情熱に触れさせることで、生徒の枠を外したい

北海道旭川東高校 花尻健明 はなじり・たけあき



本校の生徒の大半は、入学時、北海道大学を志望しますが、北海道大学という選択肢の中でしか進路を考えない生徒、もっと高い目標を目指せるのに自分で上限をつくってしまっている生徒もいます。様々な講師の情熱に触れることで、枠を取り外すきっかけになってほしいと思います。進路講演会の最終目標は、高校生生活を充実させることが未来をつくることであると理解させることだと私は考えています。目の前の物事に、先の見通しを持って一生懸命に取り組んでもらいたいですし、その意味で、今回の改訂で振り返りシートにも、生徒が未来と今をつなげる機能を盛り込むことができました。

旭川市でも、地域活性化は重要な課題です。地域には、独自の視点で様々な物事に挑戦する人がいますから、生徒にそうした人たちの存在をもっと知らせたいです。ただ、地域活性化は、正解が簡単に出ない難問です。生徒にも性急に正解を求めることなく、考え続けさせたいのです。進路講演会を通して考えたことを、時間を置いて再度振り返る機会もつくりたいですね。

花尻先生プロフィール 教職歴10年。同校に赴任して3年目。進路指導部。数学科。「常に前向きに、当たり前のことを当たり前にする」

学校プロフィール 全日制・定時制/普通科/共学/1学年約2800人/2017年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、旭川医科大学/北海道大、東京大、東京工業大、九州大などに145人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ195人が合格。

生徒の「今」を肯定した上で、チャレンジを引き出す

群馬県立下仁田高校 高橋真人 たかはし・まさと



本校で振り返りシートを活用する場合、生徒に問いかける言葉にはとことんこだわりたいです。例えば、「共感できたこと」という尋ね方よりも、「話の中で、すてきだなと思っただころはどこだろう。なぜ、そう思ったのだろう」といった問いの方が答えやすいかもしれません。また、進路講演会を通して「自分の生活を変えたいこと、新たに挑戦したいこと」を生徒に迫りがちですが、私は「今後も続けたいこと」を聞いてあげたいです。平素のあり方を尋ね、今の生活は間違っていないと認めた上で、「変わりたいこと」「やってみたいこと」を聞く配慮が、自己肯定感の低い生徒には特に必要だと思います。

地域で活躍する講師の話聞いた後、生徒は大きな夢を語る代わりに「私が地域にできることはごみ拾いだ」と答えるかもしれません。そういう「今の自分」に無理のない言葉を受け止めた上で、ほかにもできることはないのかを生徒に段階的に考えさせたいです。生徒に寄り添った問いかけのスキルをもっと磨きたいと思います。

高橋先生プロフィール 教職歴14年。同校に赴任して9年目。教務主任。数学科。「物事に謙虚に、楽しく取り組む大切さを、自らの姿を通して生徒に教える」

学校プロフィール 全日制/普通科/共学/1学年約60人/2年次からアドバンスコース、ビジネスコース、カルチャーコースの3コースに分かれる/2017年度進路実績(現役のみ)/4年制大学・短大進学3人、専門学校進学20人、就職22人。

教師間でねらいの共通理解を図り、生徒に伝える

埼玉県立浦和高校 岡本眞一郎 おかもと・しんいちろう



過去の勤務校では、生徒の進路意識を向上させるため、多様な領域の社会人に仕事の魅力を語ってもらいました。一方、現任校では、第1志望大学が明確で様々なことに興味・関心を持つ生徒が多いため、部活動や行事で多忙な中、どんな受験勉強をしていたかを卒業生に語ってもらうことも重視しています。進路講演会のあり方は学校の教育方針、生徒の状況によって大きく変わります。

振り返りシートを本校で活用する場合、講演を聞いて興味を持った社会課題を挙げさせ、さらに今の時点で考えられる解決の道筋を書かせたいです。社会に対して「何かできるはず」と自信を持っている生徒には、講演内容から派生して、自分の生き方を大胆に考えさせる問いを投げかけたいですね。

進路講演会に対する教師の共通理解と、それを踏まえた声かけが不十分だと、生徒は「この仕事は自分の目指すものではない」と表層的に捉えがちです。「難題に挑むことの面白さに気づく」など、ねらいを理解させるための教師の目線合わせは必須です。

岡本先生プロフィール 教職歴35年。同校に赴任して1年目。進路指導部。英語科。「活躍できる場を与え、対話を通して導き、生徒一人ひとりに成長や自立を美感させたい」

学校プロフィール 全日制・定時制/普通科/男子校/1学年約360人/2017年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、東京大、京工業大、一橋大、京大などに100人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ182人が合格。

改良したいのに、どうすべきか分からない……

指導ツールを募集しています!

「改良! 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける先生及び取材で検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの先生方のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①~④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

※送信前に一度、生徒様の情報が削除されているかご確認をお願いいたします

- ①学校名・お名前
- ②分掌・ご教職歴
- ③ツールの内容(目的・活用時期・活用方法)
- ④ツールに対する課題意識、改善要望

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良! 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口(0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時~21時)にて承ります。(株)ベネッセコーポレーション CPO(個人情報保護最高責任者) 上記をご承諾くださる方はご送信ください。